

# 権利としての福祉を守る

## 関係団体共同実行委員会 ニュース No3

実行委員会事務局（台東区蔵前 4-6-8 サンプルビル5F-A 福祉保育労内）発行 2015. 5. 15

### 5.12 院内集会は 210 人の参加で大成功！ 署名 1985 団体分を提出しました

「社会福祉事業の解体を許さない！」という熱い思いを胸に、大型低気圧接近もなんのその。衆議院第一議員会館の多目的ホールには、開会 1 時間近く前から参加者が続々と集まり、用意した 200 部の資料が足りなくなってしまうほどでした。

集会は 21 世紀・老人福祉の向上をめざす施設連絡会の正森克也さんの司会でスタート。主催者あいさつで障害者の生活と権利を守る全国連絡協議会の中内福成会長は、安倍政権の社会福祉事業の解体と経済活性化・戦争できる国づくりは表裏の関係と指摘。退職手当共済制度の公費助成外しは人材確保に逆行すると批判。関係団体の共同を広げて「来年は、日比谷野音を埋めつくそう」と呼びかけました。

情勢学習では、日本障害者センターの山崎光弘理事が、社会福祉法人アンケート（15,121 か所に郵送して 2,156 件が回答）の結果では、社会福祉法等の改正案の内容がどの事業種別でも知られていないことが統計的にも確認されたと説明しました。そのうえで、改正案では「地域の公益的などりくみは努力義務だから安心とはいえない」、「余剰金は行政コントロールで生み出すことが可能」「福祉人材の処遇はよくなる」と指摘。社会福祉法人に「安かろう悪かろうの公的福祉」を担わせようとしていることを明らかにしました。



＜中内福成会長＞



＜山崎光弘理事＞



#### 【参加者アンケートから抜粋】

- \* 短い時間に要点を押さえたわかりやすい学習でした。資料を活用し、皆に伝えたいと思います。
- \* 実際的でわかりやすく問題が浮きぼりになり、今後の自分たちの学習会で話題にしたい。

### 権利としての福祉を守る5・

主催：権利としての福祉を守る関係団体



＜署名を渡す栗木さん、五十川さん、今井さん＞

集会には、日本共産党参議院議員の倉林明子・田村智子のお二人が駆けつけてくださいました。

お二人を含めて共産党の全国会議員が紹介議員になっていただけるということで、この日までに実行委員会団体が集約した 1985 団体分の緊急請願書（団体署名）を、実行委員会を代表して、全国福祉保育労働組合の栗木さんと五十川さん、21 老福連の今井さんがお渡ししました。

#### 【参加者アンケートから抜粋】

- \* 請願書を集めたものが実際に議員に手渡される。活動が目に見えて実行できたという実感が持てた。

# 議員要請は衆参の厚労・内閣委員 126 人を訪問 5 人の議員と直接会えました

きょうされん事務局長の多田薫さんから、議員要請行動のすすめ方の説明を受け、参加者は 32 のグループに分かれて国会議員 3～4 人の議員室に要請にでかけました。

提出された 30 グループ分の議員要請団報告書を集約したところ、国会議員本人と会えたのが右欄 5 人、秘書対応だったのが 101 人、不在で資料をポストインしたのが 11 人、受取拒否が 1 人でした。

民主党の辻元清美議員事務所では、秘書が「事前にいただいているので、議員本人から紹介議員になれると言われていた」と対応。訪問したメンバーがまとめの集会の時間に 500 団体分の署名を持って再度訪問して手渡してきました。

参加者からは、「要請グループも各団体の混在であれば、交流や学ぶところも多いと思う」「小さな力でもいずれ大きなものにつながるるので、これからも積極的に参加したい」などの感想が出されています。

その後、5月14日に民主党の山井和則・泉健太の両議員事務所から、紹介議員応諾の連絡が入っています！！

## 【議員要請団報告から抜粋】

大西健介（民主）

一部の法人とまじめな法人と一緒にするのはおかしい。紹介議員の件は後日返答する。

小沢鋭仁（維新）

主張は了知した。難しい問題かわからないが検討はする。

堀内照文（共産）

厚生労働委員会で退職手当共済の公費助成外しについて取り上げた。

池内さおり（共産）

うその情報で対立させ、社会福祉法人は優遇されているといわれている状況だ。

塩川鉄也（共産）

労働条件が伴わず、支える側と支援を受ける側が逆境にあることを受けとめた。

## 厚労委員への要請 FAX にとりくむことを確認 集会参加者が地方の共同運動を広げよう！

要請行動後に、参加者が多目的ホールに再度集まったところへ、衆議院本会議を終えたばかりの清水忠史議員（共産党）が到着。国会情勢も交えて参加者へのエールが送られました。

議員要請団を代表して、愛知・社会福祉事業のあり方検討会の藤井さんが、自民党の秘書の「粛々と審議する」発言や、法案が議員の間で話題に上っていないことを報告。社会福祉施設経営者同友会の桑原さんは、マネキンに話しているような印象があると、法案への関心の低さを指摘。それでも、共産党の山下芳生議員が「審議入りする前に大きな集会を持ったことに意義がある」と励ましてくれたことを受けて「今ここでがんばらないと！」と決意を語りました。

福祉保育労の澤村直書記長が、集会の成功を受けて今後の運動について提起。①団体署名を厚労委員への FAX 要請運動に切り替えていく、②今日の参加者が伝える役割を担って各地方での共同運動を広げていき、中内障全協会長が呼びかけた「来年の日比谷野音を埋めつくす集会」につなげていく、③法案審議が始まったら、首都圏を中心に委員会傍聴を組織していく、の 3 点を確認しました。

最後に、愛知県民間社会福祉施設経営管理者会議の石井一由記会長が、「戦争と福祉は相容れない」「万が一法案が通っても、実際にはその後定められる政省令の内容次第で決まる。運動は息の長いとりくみにしていきましょう」とあいさつして閉会となりました。



〈藤井さん〉



〈桑原さん〉



〈清水忠史議員〉



〈石井一由記会長〉